

1 本製品について

本装置の各部の名称やその機能、特長について説明します。

- | | |
|------------------------|---|
| 本製品の特長(→2ページ) | 本製品の紹介とその特長、機能について説明します。また、添付のCD-ROMと代表的なバンドルソフトウェアについて説明しています。 |
| 各部の名称と機能(→10ページ) | 本体の各部の名称と機能についてパーツ単位に説明しています。 |
| 基本的な操作(→20ページ) | 電源のONやOFFの方法、およびフロッピーディスクやディスクのセット方法、クライアントマシンから本装置へのアクセス方法などについて説明しています。 |

本製品の特長

本製品について紹介します。

おもな特長と機能

本装置はネットワーク上のクライアントPCが利用するさまざまなデータやデータベースをハードディスクドライブに格納することにより、資産の共有化と一元管理化を目的としたネットワークファイルサーバです。

■ Network Attached Storage(NAS)

NASとは、既存環境に対する変更を加えることなく、大規模ストレージシステムを提供するネットワーク接続型ストレージに特化したアプライアンスサーバです。

一般的にNASは非常に導入が容易です。ネットワーク管理やOSに関する広範な知識がなくとも使用することができ、通常管理業務はクライアントからWebブラウザベースのGUI経由で行うことができます。ユーザーはNASをネットワークに接続、電源を投入し、最小限のセットアップ作業を行うだけで運用を開始することができます。

■ 高速なファイルサービス

ファイルサービスに最適化した専門設計により、高コストパフォーマンスを実現。

■ 高い処理性能

- NAS(Network Attached Storage)サーバとしての性能向上に必要な機能のみを実装したスリムな専用サーバ
- ファイルアクセスの性能をチューニングし、優れたパフォーマンスを提供
- マルチプロトコルに対応

■ 容易なシステムの導入と設定

CIFS(Windows)、NFS(UNIX)、AppleTalk(Apple Macintosh)ベースの混在するネットワーク環境に設定から稼働まで約10分で導入が可能です。

■ 高い運用管理能力

システム運用管理ソフトウェアESMPROで他のサーバやワークステーションと連携し、稼働状況の遠隔管理も可能。

■ 高信頼性

システムディスクはRAID5(データおよび冗長データのストライピング)のディスクアレイで構成されています。万一、一方のハードディスクドライブが故障してももう一方のハードディスクドライブで運用を続けることができます。また、ハードディスクドライブはホットスワップで交換できます。

■ 拡張性

ハードディスクドライブやメモリ、プロセッサ、各種PCIカード、内蔵型バックアップファイルデバイスなど多種多様な内蔵オプションデバイスを搭載することができます(プロセッサは出荷時の状態でフル装備となっています)。

■ 管理機能

Web UI 本装置のサービスやアプリケーションを操作することができるブラウザベース (Internet Explorer 6.0以降を推奨) のコンソールを提供しています。

iStorage NS連携モジュール ESMPRO/ServerManagerがインストールされているコンピュータでを使用することにより、本装置を管理するコンソール「Web UI」を起動することができます。

システム運用管理ソフトウェアESMPROとの統合 ESMPRO/ServerManagerによる一元管理や稼動状況の遠隔監視が可能になります。

ディスクアレイ管理ソフトウェアによる運用・管理 本装置ではシステム・データディスクともPromise Array Management(PAM)を使用して管理します。PAMによりRAIDの運用・管理を一元化し、稼動状況の遠隔監視もできます。このユーティリティはESMPROとも連携しています。

エクスプレス通報サービス エクスプレス通報サービスをお申し込みいただくことで、管理センターからの遠隔管理が可能になります。

■ ファイルサーバ機能

マルチプロトコル対応 CIFS、NFS、FTP、HTTP、AppleTalkのマルチプロトコルに対応。WindowsやUNIX、Linux、Apple Macintoshなどが混在する既存のネットワーク環境に設置するだけで簡単にそのネットワーク環境での記憶容量を拡張することができます。

ファイルアクセス制御 ファイルシステムにNTFSを使用しているため、ファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

必ずお読みください

本装置のOSを再インストールする場合は、本体内蔵のディスクアレイコントローラのライトキャッシュの設定は「Write Thru」を選択してください。

増設バッテリーを搭載している場合は、「Auto Switch」を選択できますが、OSのインストール時は「Write Thru」にしてください。

なお、増設バッテリーの有無にかかわらず「Write back」は選択しないでください。

RAID構成を変更して再インストールする場合のパーティションサイズについて

RAID構成を変更して再インストールする場合は、以下のようにパーティションを設定してください(**太字**がシステムパーティションです)。RAID構成については208ページを、ホットスワップについては210ページを参照してください。

- RAID5(3D + P): **12GB** + 686.5GB (出荷時構成)
- RAID5(2D + P + S): **12GB** + 453.7GB
- RAID1(DP + DP): **12GB** + 220.8GB + 232.8GB
- RAID0(4D): **12GB** + 919.3GB

* EXPRESSBUILDERのディスクアレイコンフィグレーション機能を使用する場合は、本体内に4台のハードディスクドライブが接続されていないと機能しません。また、構築できるRAIDレベルはRAID5のみです(4章を参照してください)。再インストールの詳細については、7章を参照してください。

修正モジュールについて

本体標準添付のソフトウェアに対する、サービスパック、修正モジュール、セキュリティパッチ等のアップデートモジュールの適用は、弊社の指示に従ってください。マイクロソフト社が公開している手順はご利用できません。アップデートモジュールの適用手順につきましては、販売店等にご確認ください。

<http://nec8.com/>

* PP・サポートサービスでは、上記URLでは公開していない最新の修正モジュール入手することができます。ご契約については、販売店等にご確認ください。

添付のディスクについて

本装置には、セットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやDVD-ROM、フロッピーディスクが添付されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用途について説明します。



添付のCD-ROMやDVD-ROM、フロッピーディスクは、システムのセットアップが完了した後も、システムの再セットアップや保守・管理の際に使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

● iStorage NS44Pバックアップ DVD-ROM

システムのバックアップとなるDVD-ROMです。

再セットアップの際は、このDVD-ROMから本装置へソフトウェアをインストールします。詳細は197ページを参照してください。



購入時のハードディスクドライブには、本装置に必要なOSやモジュール、コンポーネント、管理用アプリケーションがすべてインストール済みです。運用開始時は、LANポートにケーブルを接続して電源をONにした後、「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMの「初期設定ツール」を使用して、簡単にセットアップができます。

DVD-ROMの中にはおもに次のOSやコンポーネント、モジュール、アプリケーションが格納されています。これらは、再セットアップの際に自動的にインストールされます。

- Microsoft Windows Storage Server 2003 OS と本装置に必要な関連モジュール (サービスパックを含む)
- Service for UNIX (UNIX環境との接続に使用するモジュール)
- Service for Macintosh (Macintosh環境との接続に使用するモジュール)
- シャドウコピー (即時データ複製を可能にするアプリケーション)
- ESMPRO/ServerAgent (管理用統合アプリケーション)
- Promise Array Management (ディスクアレイ管理用アプリケーション)
- エクスプレス通報サービス (保守用アプリケーション、利用には別途契約が必要です。)
- その他、専用デバイスドライバや専用モジュール

● EXPRESSBUILDER(SE)CD-ROM

本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。

このCD-ROMには各種ソフトウェアが格納されており、その用途に合わせて使用されます。

CD-ROMはWindows (Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降) が動作しているコンピュータのCD-ROMドライブにセットすると、自動的にメニュー (マスターコントロールメニューと呼びます) が起動します。

メニューからは、各種ソフトウェアの実行やインストールをすることができます。

- 初期設定ツール
- ESMPRO/ServerManager
- Adobe Acrobat Reader



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMの次のファイルをエクスプローラなどから実行してください。

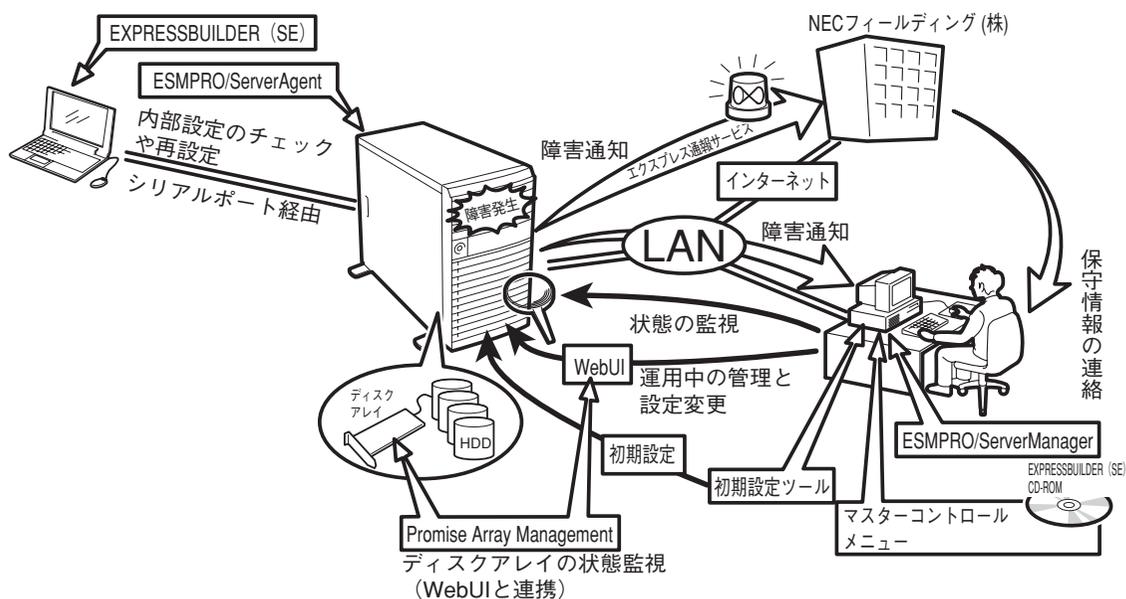
¥MC¥1ST.EXE

EXPRESSBUILDER (SE) を本体のDVD-ROMドライブにセットすると、以下のソフトウェアで本体の保守・管理をすることができます。

- EXPRESSBUILDER (SE) メインメニュー

管理アプリケーションの用途

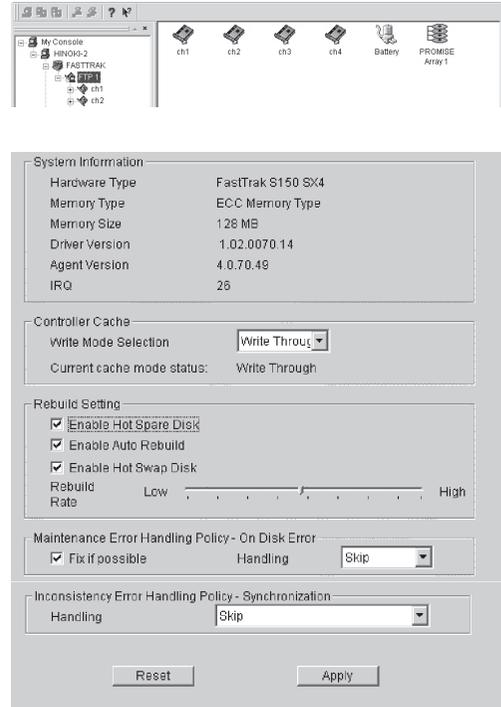
添付のCD-ROMやDVD-ROM、フロッピーディスクに格納されている管理アプリケーションの用途について簡単に説明します。



Promise Array Management

Promise Array Management(以下PAM)はコンピュータに接続されたPromise社製のSerial ATAインタフェースのRAIDシステムを管理するためのユーティリティです。

PAMを使うことにより、コンピュータ上のRAIDシステムについて、アレイの作成、リビルドや監視などを行うことができます。本装置のハードディスクドライブはディスクアレイを採用しているため、万一のハードディスクドライブの故障によるデータの消失を防ぐことができますが、本装置を運用する際は、Promise Array Managementを利用して、万一のトラブルから故障したハードディスクドライブを交換して、ディスクアレイを正常な状態にいち早く復旧させるよう心がけてください。



Promise Array Managementは「iStorage NS44Pバックアップ DVD-ROM」に格納されています(あらかじめ本装置の一部として本体に組み込まれています)。

EXPRESSBUILDER(SE)

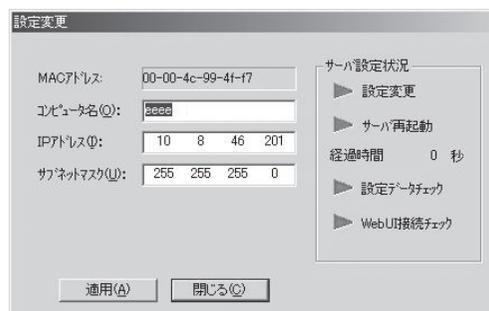
リモートで本装置を管理したり、システム診断、オフライン保守ユーティリティの実行などを行ったりします。詳細は85ページを参照してください。



初期設定ツール

本製品のセットアップ時に使用するツールです。このツールを使ってコンピュータ名やネットワークの設定します。詳細は34ページを参照してください。

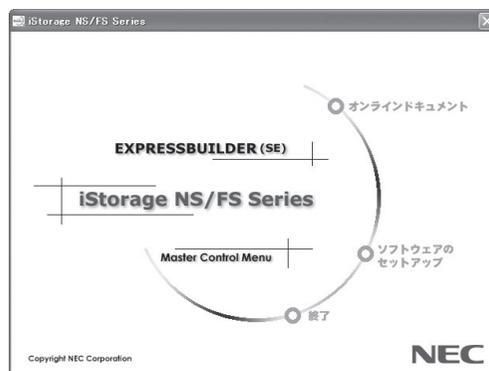
初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに格納されています。



マスターコントロールメニュー

EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROMをWindows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が動作しているコンピュータのCD-ROMドライブにセットすると自動的に表示されるメニューです。

このメニューからは、Windows上で動作する各種ソフトウェアのインストールや実行、およびオンラインドキュメントの参照ができます。



エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

重要 エクスプレス通報サービスの利用には別途契約が必要です。

エクスプレス通報サービスは「iStorage NS44PバックアップCD-ROM」に格納されています。あらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。



ここで説明していないスイッチやコネクタは使用しません。使用すると故障の原因となります。

装置前面

① フロントドア

POWERスイッチ、5.25インチデバイス、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブを取り扱うときや3.5インチデバイスベイにハードディスクドライブを取り付ける(または取り外す)ときに開ける。添付のセキュリティキーでロックすることができる(→20ページ)。

② キースロット

フロントドアをロック/解除するセキュリティキーの差し口(→20ページ)。

③ スタビライザ(左右各2個)

転倒防止用のストッパ。

④ LANアクセスランプ(緑色)

LANに接続されているときに点灯し、LANにアクセスしているときに点滅する(→16ページ)。

⑤ DISK ACCESSランプ(緑色/アンバー色)

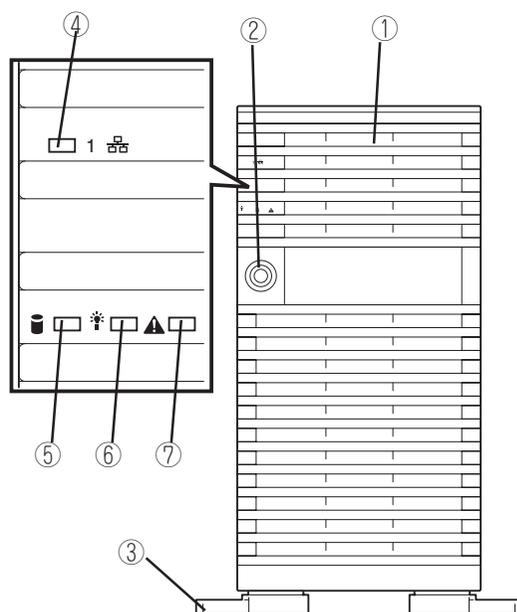
内蔵のハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯する。内蔵のハードディスクドライブのうち、いずれか1つでも故障するとアンバー色に点灯する。(→17ページ)。

⑥ POWER/SLEEPランプ(緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する。電源をOFFにすると消灯する(→17ページ)。またシステムがスリープ状態のときに点滅する。

⑦ STATUSランプ(緑色/アンバー色)

本装置では機能しない。



装置前面(フロントドアを開いた状態)

① 5.25インチデバイスベイ

オプションのDATドライブや光磁気ディスクドライブなどを取り付ける場所(→106ページ)。下のスロットからスロット1~3。

② DVD-ROMドライブ

DVD-ROMのデータの読み出しを行う(→26ページ)。

- ②-1 ヘッドフォンジャック
- ②-2 ボリューム
- ②-3 アクセスランプ
- ②-4 トレー
- ②-5 エマージェンシーホール
- ②-6 オープン/クローズボタン

③ 3.5インチハードディスクドライブベイ

ハードディスクドライブ増設用スロット(→103ページ)。

最大4台まで搭載可能で、下から順番に搭載する(4台(250GB×4)標準装備)。ディスクアレイを構築済みで出荷時はRAID5で構築済み。ホットスワップ対応。

④ DISKランプ(緑色/アンバー色)

取り付けているハードディスクドライブにアクセスしているときに緑色に点灯する(→18ページ)。ハードディスクドライブが故障するとアンバー色に点灯し、リビルド中はアンバー色にゆっくりと点滅する。

⑤ 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き込み/読み出しを行う装置(→25ページ)。

- ⑤-1 イジェクトボタン
- ⑤-2 ディスク挿入口
- ⑤-3 フロッピーディスクアクセスランプ(アクセス中は緑色に点灯)

⑥ POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWER/SLEEPランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すと電源をOFFにする(→21ページ)。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする(→24ページ)。

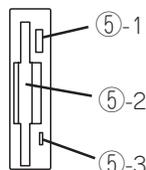
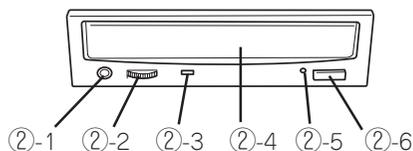
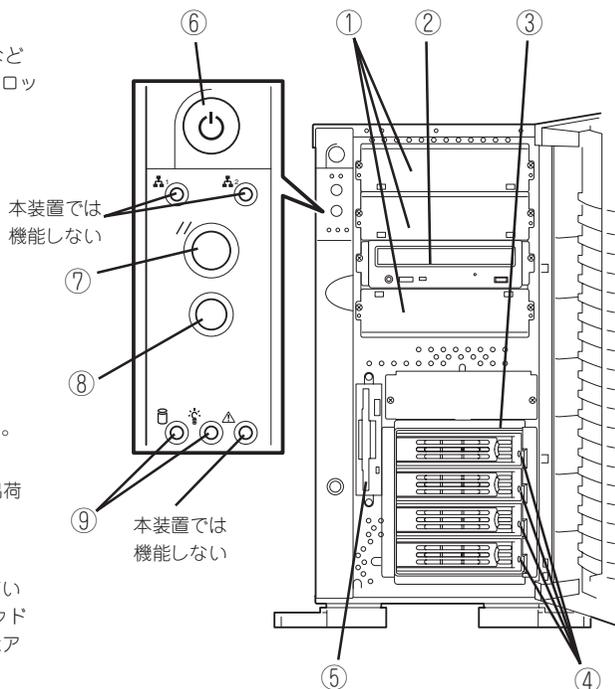
⑦ RESETスイッチ

本体をリセットするスイッチ。

⑧ DUMPスイッチ

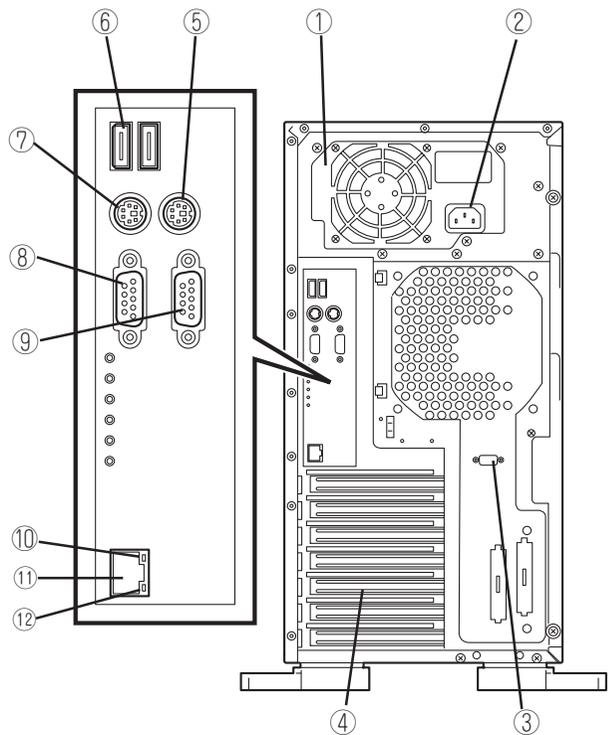
本体に起きたイベントログを採取する。

⑨ ランプ(前ページ参照)



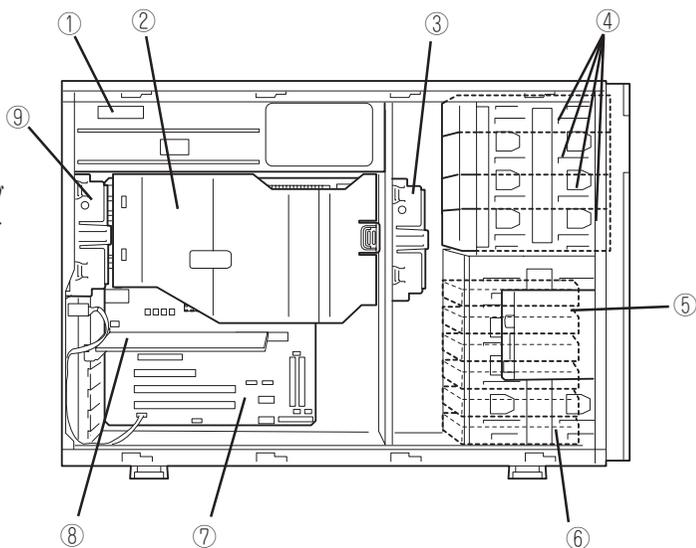
装置背面

- ① 電源ユニット
本装置にDC電源を供給する装置。
- ② ACインレット
電源コードを接続するソケット(→32ページ)。
- ③ シリアルポートBコネクタ
シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→32ページ)。
なお、専用回線に直接接続することはできません。
- ④ PCIボード増設用スロット
オプションのPCIボードを取り付けるスロット(→109ページ)。
- ⑤ マウスコネクタ
添付のマウスを接続する(→32ページ)。
- ⑥ USB1~2コネクタ*
USBインタフェースに対応している機器と接続する(→32ページ)。背面から見て左から順にコネクタ1、コネクタ2と割り当てられている。
- ⑦ キーボードコネクタ
添付のキーボードを接続する(→32ページ)。
- ⑧ モニタコネクタ
ディスプレイ装置を接続する(→32ページ)。
- ⑨ シリアルポートAコネクタ
シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→32ページ)。
なお、専用回線に直接接続することはできません。
- ⑩ LINK/ACTランプ
LANのアクセス状態を示すランプ(→19ページ)。
- ⑪ LANコネクタ
1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したLAN上のネットワークシステムと接続する(→32ページ)。
- ⑫ スピードランプ
標準装備のLANポート転送速度を示すランプ(→19ページ)。

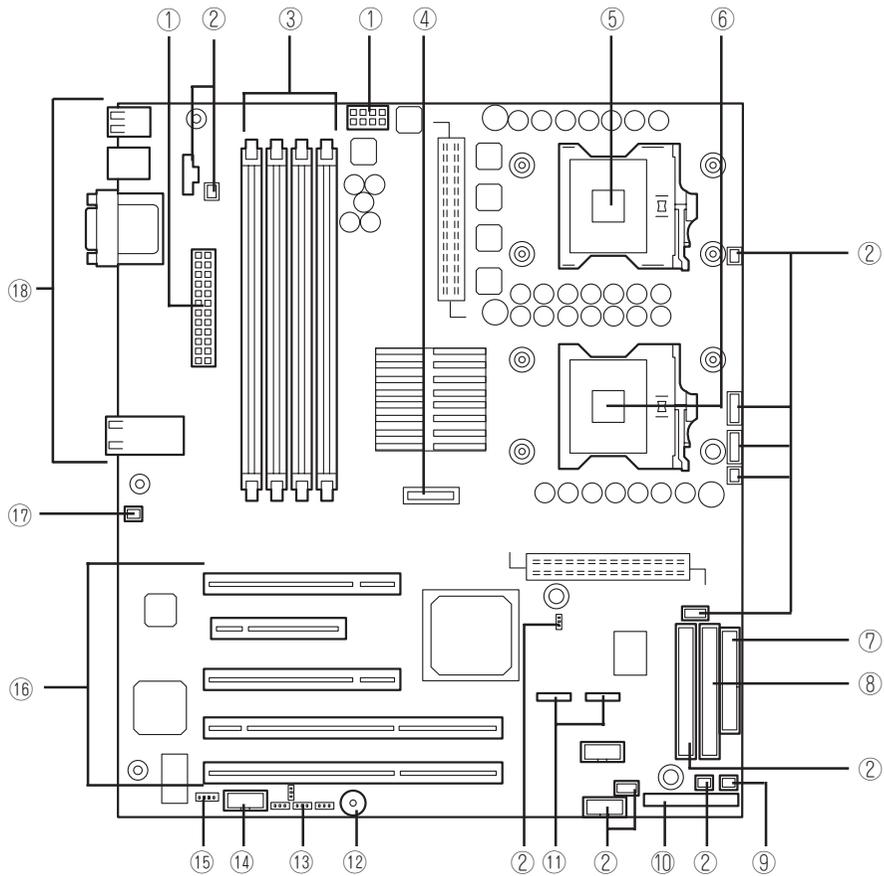


装置内部

- ① 電源ユニット
- ② ダクトカバー
- ③ フロントファンユニット(標準装備)
- ④ 5.25インチデバイスベイ(4スロット)
最大3台まで増設可能。
- ⑤ 3.5インチフロッピーディスクドライブ
- ⑥ 3.5インチハードディスクドライブベイ
ハードディスクドライブ4台を搭載可能。オプションの増設HDDケージに交換することで最大6台のSCSIハードディスクドライブを搭載可能。
- ⑦ マザーボード
- ⑧ SATAディスクアレイコントローラ(標準装備)
- ⑨ リアファンユニット(標準装備)



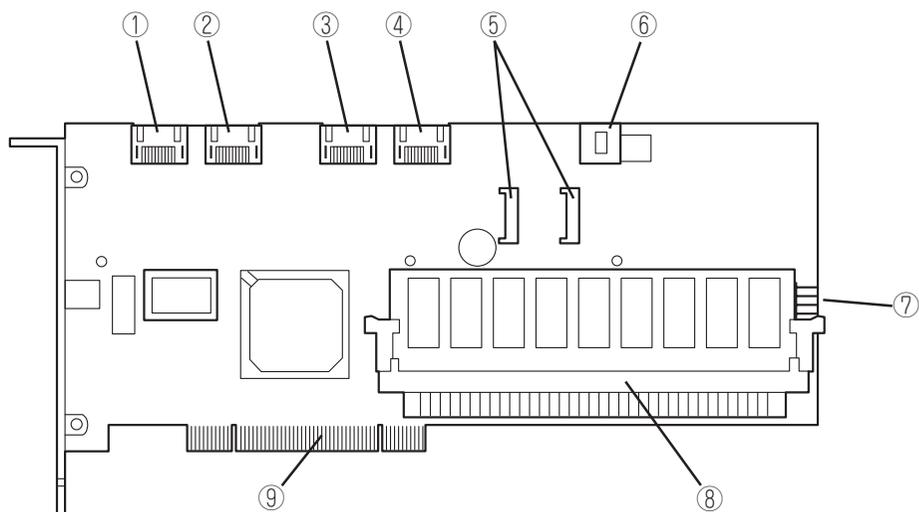
マザーボード



- | | |
|---|--|
| ① 電源コネクタ | ⑫ スピーカ |
| ② 未使用コネクタ/未使用ピン | ⑬ CMOSメモリ/パスワードクリア用ジャンパスイッチ
(152ページ参照) |
| ③ DIMMソケット(左からSlot#1B、#1A、#2B、
#2A)
2枚1組単位で増設する(この単位を「Group」と呼ぶ)。 | ⑭ シリアルポートBコネクタ |
| ④ リチウムバッテリー | ⑮ ディスクLEDコネクタ |
| ⑤ プロセッサ1ソケット | ⑯ PCIボードスロット(5スロット、下からPCI#1→
PCI#2→PCI#3→PCI#4→PCI#5)
PCI #1~#2: 64-bit/66MHz
PCI #3: 32-bit/33MHz
PCI #4: PCIe x8
PCI #5: 32-bit/33MHz |
| ⑥ プロセッサ2ソケット(未使用) | ⑰ リアファンコネクタ |
| ⑦ フロッピーディスクドライブコネクタ | ⑱ 外部接続コネクタ(12ページ参照) |
| ⑧ IDEコネクタ(CD-ROMドライブ用) | |
| ⑨ フロントファンコネクタ | |
| ⑩ フロントパネルインタフェースコネクタ | |
| ⑪ シリアルATA(SATA)コネクタ(未使用) | |

* ここでは本装置のアップグレードや保守(部品交換など)の際に使用するコネクタのみあげています。その他のコネクタや部品については出荷時のままお使いください。

ディスクアレイコントローラボード



- ① チャンネル1 (Port1)SATAコネクタ
- ② チャンネル2 (Port2)SATAコネクタ
- ③ チャンネル3 (Port3)SATAコネクタ
- ④ チャンネル4 (Port4)SATAコネクタ
- ⑤ 増設バッテリー用コネクタ
- ⑥ I2Cコネクタ
I2Cケーブルと接続するコネクタ。
- ⑦ HDD LEDコネクタ
マザーボードのDAC LEDコネクタと接続する。
- ⑧ 128MB SDRAM DIMM
- ⑨ PCIコネクタ
本装置のPCIスロットと接続するコネクタ。

ランプ表示

本装置のランプの表示とその意味は次のとおりです。

LANアクセスランプ(品)

本装置がLANに接続されているときに緑色に点灯し、LANを介してアクセスされているとき(パケットの送受信を行っているとき)に点滅します。

STATUSランプ(△)

本装置が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、アンバー色に点灯/点滅しているときは本装置になんらかの異常が起きたことを示します。

次にSTATUSランプの表示の状態とその意味、対処方法を示します。

STATUSランプの状態	意味	対処方法
緑色に点灯	正常に動作しています。	—
緑色に点滅	メモリかCPUのいずれかが縮退した状態で動作しています。 メモリ1ビットエラーが多発しています。	BIOSセットアップユーティリティ「SET UP」を使って縮退しているデバイスを確認後、早急に交換することをお勧めします。
消灯	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。
消灯	POST中である。 CPUでエラーが発生した。(Thermal-Trip) ウォッチドッグタイマタイムアウトが発生した。 CPUバスエラーが発生した。	しばらくお待ちください。POSTを完了後、しばらくすると緑色に点灯します。 いったん電源をOFFにして、電源をONにし直してください。POSTの画面で何らかのエラーメッセージが表示された場合は、メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
	メモリダンプリクエスト中。	ダンブを採取し終わるまでお待ちください。
アンバー色に点灯	温度異常を検出した。 電圧異常を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、ファンユニットが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 保守サービス会社に連絡してください。
アンバー色に点滅	ファンアラームを検出した。 温度警告を検出した。	ファンユニットが確実に接続されているか確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 内部ファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、ファンユニットが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。



- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティをインストールしておくこととエラーログを参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか(24ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

POWER/SLEEPランプ(💡)

本装置の電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。電源が本装置に供給されていないとPOWERランプが消灯します。

省電力モードをサポートしているOSで、本装置を省電力モードに切り替えるとランプが緑色に点滅します。POWERスイッチを押すと、通常の状態に戻ります。

省電力モードはWindows Server 2003/Windows2000の場合に機能します。また、OSによっては一定時間以上、本装置を操作しないと自動的に省電力モードに切り替わるよう設定したり、OSのコマンドによって省電力モードに切り替えたりすることもできます。

DISK ACCESSランプ(💿)

DISK ACCESSランプは3.5インチハードディスクドライブベイに取り付けられているハードディスクドライブの状態を示します。

ハードディスクドライブにアクセスするたびにランプは緑色に点灯します。DISK ACCESSランプがアンバー色に点灯している場合は、ハードディスクドライブに障害が起きたことを示します。故障したハードディスクドライブの状態はそれぞれのハードディスクドライブにあるランプで確認できます。

DISK ACCESSランプが緑色とアンバー色に交互に点滅している場合またはアンバー色に点滅している場合は、内蔵のディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクドライブのリビルド(再構築)が行われていることを示します。

アクセスランプ

フロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

ハードディスクドライブのランプ

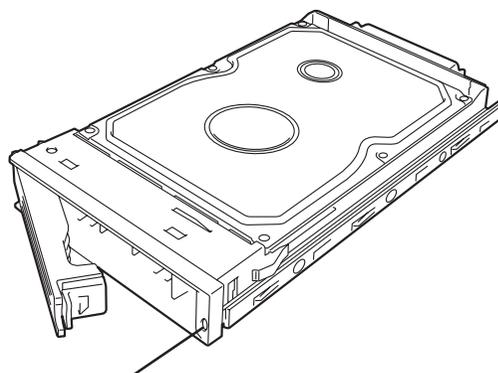
3.5インチデバイスベイに搭載しているDISKランプは表示状態によって意味が異なります。

- 緑色に点灯

ハードディスクドライブに電源が供給されていることを示します。

- アンバー色に点灯

ハードディスクドライブが故障していることを示します。



DISKランプ



ディスクアレイ (RAID1、RAID5) を構成している場合は、1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築 (リビルド) を行うことをお勧めします (ディスクの交換はホットスワップで行えます)。

- アンバー色にゆっくりと点滅

ハードディスクドライブの再構築 (リビルド) 中であることを示します (故障ではありません)。ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクドライブを交換すると自動的にデータのリビルドを行います (オートリビルド機能)。

リビルドを終了するとランプは緑色に点灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色に点灯します。



リビルド中に本体の電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクドライブをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- 電源をOFFにしないでください (いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません)。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブが存在する場合は、ハードディスクドライブの交換は行わないでください。

LANコネクタのランプ

背面にあるLANポート(コネクタ)にはそれぞれ2つのランプがあります。

● LINK/ACTランプ

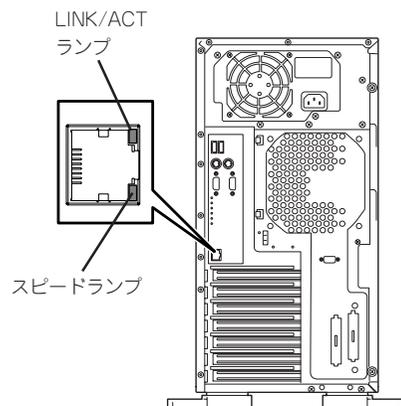
本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、緑色に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに緑色に点滅します(ACT)。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク(LAN)コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

● スピードランプ

標準装備のLANポートは、1000BASE-Tと100BASE-TX、10BASE-Tをサポートしています。

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作しているかを示します。アンバー色に点灯しているときは、1000BASE-Tで動作していることを示します。緑色に点灯しているときは、100BASE-TXで動作していることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。



基本的な操作

本装置の基本的な操作の方法について説明します。

フロントドアの開閉

本装置の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、DVD-ROMドライブ、5.25インチデバイスを取り扱うとき、3.5インチデバイスベイへのハードディスクドライブの取り付け／取り外しを行うときはフロントドアを開きます。

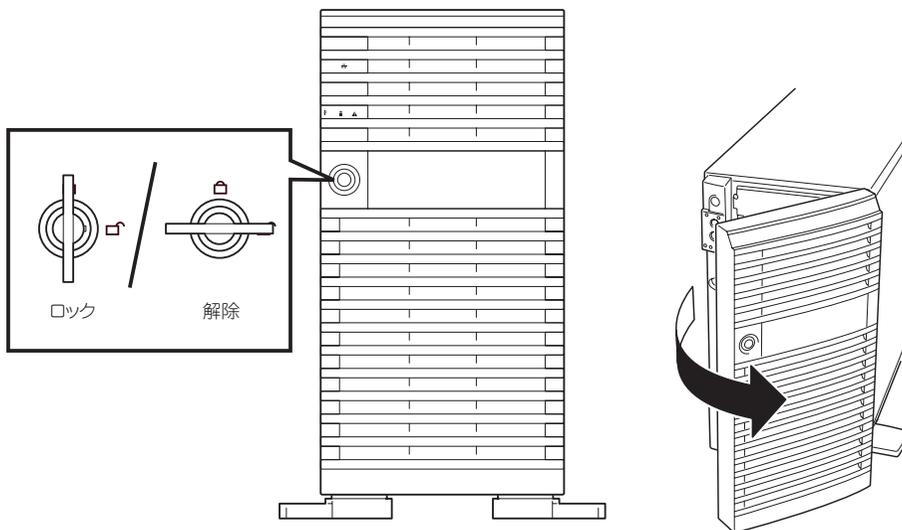


- フロントドアは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。
- ソフトウェアにはDVD-ROMドライブのトレイや5.25インチデバイスベイに取り付けているデバイスにセットしているメディアをイジェクトさせるコマンドを持つものがあります。この場合、フロントドアが開いていることを確認してからコマンドを実行してください。フロントドアを閉じたままコマンドを実行すると、フロントドアにDVD-ROMドライブのトレイや5.25インチデバイスのメディアがぶつかり、装置を故障させることがあります。

キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーを回してロックを解除してから、フロントドア左上部の取っ手を軽く持って手前に引くと開きます。フロントドアを閉じた後は、セキュリティのためにもキーでロックしてください。



フロントドアを開ける際は、左上部の取っ手にツメを引っかけて開けないようお願いいたします。フロントドアが開けづらい場合は、左上部と左下部をそれぞれ手で持って手前に引いてください。



POWERスイッチ —電源のON/OFF—

前面にあるPOWERスイッチで本装置の電源をONにします。電源のOFFはクライアントマシンからブラウザベースの「WebUI」を使います。

電源のON

電源をONにする場合は、本体前面にあるPOWERスイッチを押します。次の順序で電源をONにします。



ここでは、セットアップを完了した後の電源のONの手順について説明しています。導入後のセットアップを始めるときは、34ページの「システムのセットアップ」を参照してください。

1. 本体に電源コードが接続されていることを確認する。



電源コードを接続するとハードウェアの初期診断を始めます（約10秒間）。初期診断中はPOWERスイッチは機能しません。電源コードの接続直後は、約10秒ほど時間をおいてからPOWERスイッチを押してください。

2. 本体に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

3. フロントドアを開く。
4. フロッピーディスクドライブ、およびDVD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。



DVD-ROMドライブにディスクがセットされているとそのディスクから起動を始めます。必ずディスクがセットされていないことを確認してください(DVD-ROMドライブの場合は、電源ONの直後にDVD-ROMドライブのスイッチを押してトレイをイジェクトすれば問題ありません)。

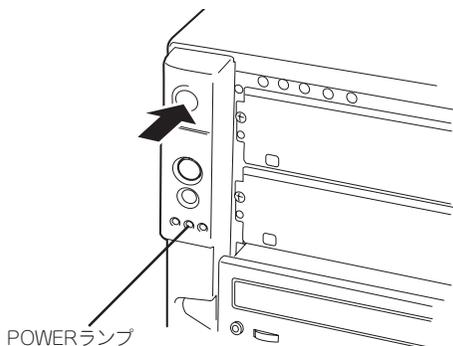
添付の「iStorage NS44PバックアップDVD-ROM」をDVD-ROMドライブにセットしたまま電源をONするとソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。

5. 本体前面にあるPOWERスイッチを押す。

POWERランプが緑色に点灯し、本体の電源がONになります。

6. クライアントマシンのWebブラウザを使って本装置へアクセスできることを確認する。

詳しくは28ページの「本装置への接続」を参照してください。



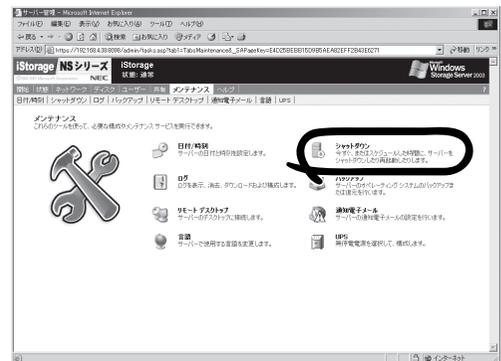
電源のOFF(および再起動)

次の順序で電源をOFFにします。

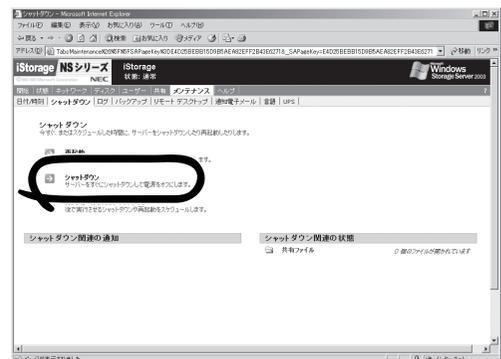
1. クライアントマシンのWebブラウザより本装置の管理コンソール (WebUI)へ接続する。
詳しくは28ページの「本装置への接続」を参照してください。
2. [メンテナンス]をクリックする。



3. [シャットダウン]をクリックする。

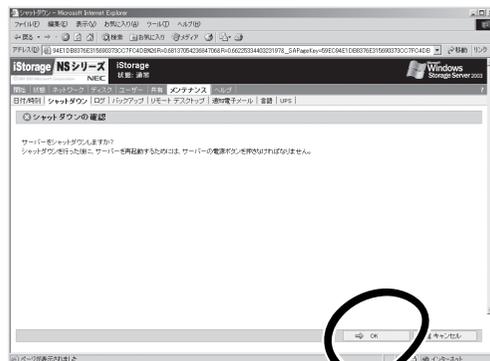


4. [シャットダウン]をクリックする。
再起動したいときは、[再起動]をクリックしてください。



5. 確認画面が表示されるので、[OK]をクリックする。

自動的に電源がOFFになります。



POWERスイッチによる電源のOFF

本装置では、セキュリティの観点から、ログオンしていない状態でのPOWERスイッチを押すことによるシャットダウンは実行できないようになっています。

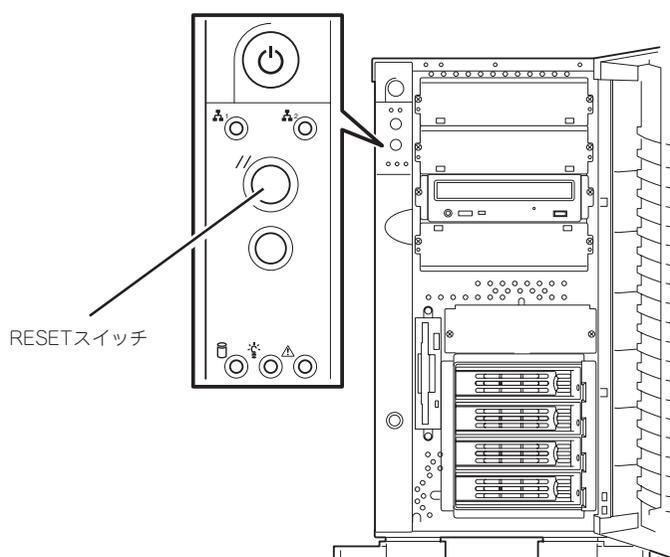
ネットワーク障害等によるWebUIからのシャットダウンができない場合の対処として、事前に以下の設定を行い、POWERスイッチによるシャットダウンを有効にしてください。または、本装置にキーボード/マウス/ディスプレイを接続していただくことを推奨します。

[ログオンしない状態でPOWERスイッチによるシャットダウンを有効にする方法]

1. WebUIを起動し[メンテナンス]をクリックする。
2. [リモートデスクトップ]をクリックする。
3. リモートデスクトップ内で、[スタート]→[すべてのプログラム]→[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]を選択する。
4. [shutdown: Allow system to be shut down without having to log on]を[有効]に設定する。

リセット

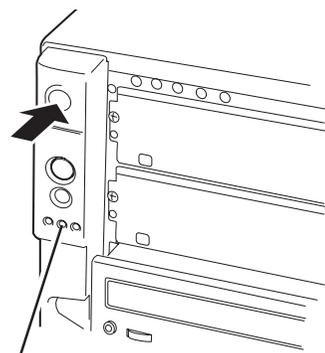
WebUIを使ってアクセスできない場合や本装置が正しく動作していない場合に本体前面にあるRESETスイッチを押して、本体をリセットします。



強制電源OFF

「電源のOFF」および「POWERスイッチによる電源のOFF」に示す方法で電源をOFFにできなくなったときに使用します。

本体のPOWERスイッチを4秒ほど押し続けてください（またはPOWERランプが消灯するまで押し続けてください）。電源が強制的にOFFになります。電源を再びONにするときは、強制電源OFFから約10秒ほど待ってから電源をONにしてください。



4秒以上かPOWER
ランプが消えるまで
押す

フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し(リード)・保存(ライト)を行うことのできるフロッピーディスクドライブが搭載されています。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON (POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。

イジェクトボタンを押すとフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出せます。

 **チェック** フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディスクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊されるおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。また、その構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッターを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。
- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消すことのないようにライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、読み出しはできますが、ディスクのフォーマットやデータの書き込みができません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしておくようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクのライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテクトスイッチで行います。
- フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によってデータが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障などによってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。

DVD-ROMドライブ

本体前面にDVD-ROMドライブがあります。DVD-ROMドライブは次の場合などに使用します。

- 添付の「iStorage NS44PバックアップDVD-ROM」を使ってソフトウェアを再インストールするとき(197ページ参照)
- 添付の「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMを使って本装置を保守するとき(85ページ参照)

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

DVD-ROMドライブのトレイを引き出したまま放置しない

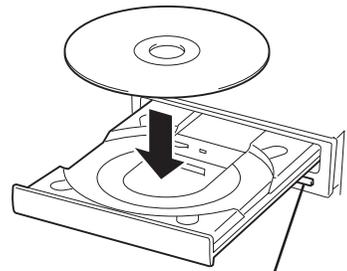
ディスクのセット/取り出し



- DVD-ROMドライブに「iStorage NS44PバックアップDVD-ROM」をセットしたまま本体の電源をONにすると(または再起動すると)、ソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- DVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMをセットしたまま本体の電源をONにすると(または再起動すると)、CD-ROMから起動し、システムとして使用できません。

ディスクをDVD-ROMドライブにセットする前にシステムの電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。

DVD-ROMドライブ前面のオープン/クローズボタンを押すとトレイが出てきます。ディスクの文字が印刷されている面を上にしてトレイの上に静かに、確実に置いてください。オープン/クローズボタンを押すか、トレイの前面を軽く押すと、トレイは自動的にDVD-ROMドライブ内にセットされます。



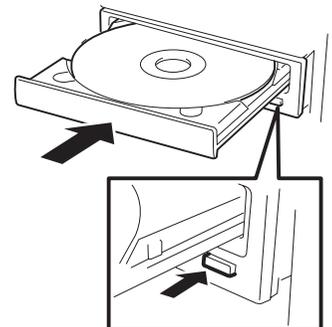
オープン/クローズボタン



ディスクのセット後、DVD-ROMドライブの駆動音が大きく聞こえるときはディスクをセットし直してください。

ディスクの取り出しは、ディスクをセットするときと同じようにオープン/クローズボタンを押してトレイをイジェクトし、トレイから取り出します(アクセスランプがオレンジ色に点灯しているときは、ディスクにアクセスしていることを示します。この間、オープン/クローズボタンは機能しません)。OSによってはOSからトレイをイジェクトすることもできます。

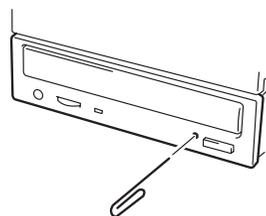
ディスクを取り出したらトレイを元に戻してください。



ディスクを取り出せないときは...

オープン/クローズボタンを押してもディスクをシステムから取り出せない場合は、次の手順に従ってディスクを取り出します。

1. POWERスイッチを押してシステムの電源をOFF (POWERランプ消灯)にする。
2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をDVD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。



重要

- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

3. トレーを持って引き出す。
4. ディスクを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

ディスクの取り扱いについて

ディスクを破損しないように、次の点に注意して取り扱ってください。

- 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- ディスクを落とさないでください。
- ディスクの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接ディスクに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいでください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

本装置への接続

本製品はセットアップを完了したらそれ以降は特に操作しなくても動作可能です。運用中の管理や設定の変更はクライアントマシンの「管理コンソール(WebUI)」を使用します。WebUIにはリモートデスクトップ機能が含まれています。

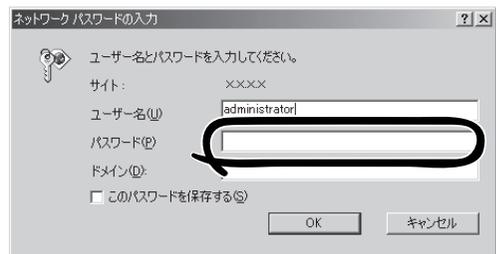
クライアントマシンのWebブラウザ(Internet Explorer 6.0以降)を使って、ネットワーク接続されている本装置に接続します。Netscapeはサポートしていません。エンコードは「自動選択」または、「Uni code (UTF-8)」にしてください。

1. クライアントマシン上でWebブラウザを起動する。
2. URL入力欄([アドレス]または[場所]など)に「https://hostname:8098/」を指定する。

「hostname」の部分には本装置のコンピュータ名を入力してください。コンピュータ名での名前解決ができない場合は、「hostname」の代わりにIPアドレスを指定してください。

3. Administratorでログインする。

ワークグループ環境のパスワードの初期値は、スタートアップガイドを参照してください。変更する場合は、ワークグループに参加させて、WebUIの「開始」→「管理者パスワードの設定」を選択してパスワードを設定してください。



正しくログインできると右の画面が表示されます。



また、WebUIはESMPRO / ServerManagerからも起動できます。ただし、この場合は事前にiStorage NS連携モジュールをESMPRO/ServerManagerがインストールされているクライアントマシンに適用しておく必要があります。



iStorage NS連携モジュールはシステムに「通常使用するブラウザ」として登録されているブラウザを起動するため、Internet Explorer 6.0以降のブラウザを事前に設定しておく必要があります。

